

どうたく 日本最大級の銅鐸 県重要文化財 久々利銅鐸



市HP

可児市のじまんとほこりVol. 3 歴史じまん

問 歴史資産課

内 2422

すごいpoint

- ・ 高さが111.5cm、重さが24.45kgもある大きな銅鐸だよ。
- ・ 今から約1800年前に作られたんだ。
- ・ 可児郷土歴史館に展示されているよ。

江戸時代の享保18年(1733)に、久々利の丘陵地で銅鐸が出土しました。この銅鐸は、出土地の地名を取って、「久々利銅鐸」と呼ばれています。

現在の高さは111.5cm、重さは24.45kgで、今までに日本全国で見つかった銅鐸の中でも特に大きな物です。一部が欠けていますが、表面を見ると細かな文様が表現されています。

久々利銅鐸は、今から約1800年前の弥生時代に作られたと考えられています。さびて緑色をしています、作られた当時は、神秘的な金銅色こんどうしきの輝きを放っていました。

弥生時代の可児には、このような立派な銅鐸を持つことができる豊かなムラ(村)があったのかもしれません。



久々利銅鐸

◎銅鐸は何に使われていた？

銅鐸が何に使われていたのかという「謎」については、さまざまな説があります。

「作物がたくさん採れるように」「雨が降るように」「災害が起こらないように」など、当時の人々の思いを込めたお祭りや儀式的の道具だったという説。

また、悪いものの進入を防ぐために、ムラの境界の山などに埋めたという説もありますが、はっきりとは分かっていません。



銅鐸作りの想像図

(公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団)
愛知県埋蔵文化財センター提供

◎「聞く銅鐸」と「見る銅鐸」

初期の銅鐸は小さな物で、楽器のように鳴らす道具として使われていました。銅鐸の内側に「舌」という棒のような物がぶら下がっていて、ベルのように鳴らしたと考えられています。これは「聞く銅鐸」と呼ばれるものです。

その後、次第に大きな銅鐸が作られるようになり、鳴らすための「舌」がなくなってしまいます。これは「見る銅鐸」と呼ばれるものです。久々利銅鐸は、日本最大級の「見る銅鐸」であり、岐阜県の重要文化財に指定されています。

※ 本記事は、「可児市のじまんとほこり2025」から、一部編集を加えて転載したものです。

